

第3回年金記録問題検証委員会 終了後座長記者会見（概要）

1. 日 時 平成19年7月4日（水）20時15分から20時55分
2. 場 所 総務省内記者会見室
3. 説明者 年金記録問題検証委員会 松尾座長
4. 概 要

《松尾座長からの報告》

- 18時30分から、第3回の年金記録問題検証委員会が開催。委員全員が出席。
- はじめに事務局から第2回以降の動きとして、国民からの情報提供の受付状況の説明。
【事務局が説明】
 - ・ 7月3日までの受付件数は、郵送及びFAXで32件。インターネットは9日から受付。
- 冒頭から社会保険庁長官以下出席という第1回、第2回とは異なる形で実施。
- 検証委員会としては、大きな論点は以下の3つと考えており、これからさらに詰めていく必要がある。
 - ・ 5,000万件、1,430万件がどういう意味をもっているのか、国民に分かりやすい形で説明すること
 - ・ オンライン化されている記録の正確性の問題
 - ・ それほど数は多くないと思うが、オンラインにも紙にも記録がないという問題。保険料の横領の事案も散見される。
- 当委員会の今後の活動についての基本的スタンス（国民の不安等をしっかり受け止めること、公正中立な立場を堅持して活動することなど）、具体的な調査事項、視点・切り口も議論。
システムの関係では齊藤委員にお願いする。コンプライアンス・ガバナンスの視点も必要であり、専門性を身に着けた人を当委員会の下部に入れることも検討中。

- 次に、社会保険庁から配付資料に基づき説明を受けた。
 - ・ まず、5,000 万件、1,430 万件を国民の側から見たとき、この年齢の方は入る・入らないなど、これまでとは逆の方向、国民の立場からのアプローチで説明を受けた。これまでよりも一歩か二歩前進したと思うが、これを我々の問題意識のどこに盛り込むか再度、検討したい。
 - ・ 次に、市町村における国民年金被保険者名簿等の保管状況について説明を受けた。これは、当委員会の資料要求に対して社会保険庁から提出されたもの。市町村の名簿はあくまで控えの性格であるが、当委員会の検証という意味でも重要。

平成 14 年 3 月末時点の旧市町村 3,246 ベースで、現在保管している旧市町村が 3,046、保管していない旧市町村が 200 であるとのこと。

委員からは、保管していないとした市町村にも実はよく調べれば一部記録が残っている場合もあるなどの話があった。
 - ・ 委員会の論点、スタンス、位置付けなどについて、今後さらにひざ詰め非公式の形で意見交換し、国民に早い段階で、現状や問題をどうとらえているか紙にまとめ、分かりやすい形で示そうということで散会。

《主な質疑応答》

- 中間的な発表の時期の具体的なイメージは？
 - 基本的スタンスとして、国民の視点に立って公正中立な立場から徹底的に検証に取り組むこととしている。選挙の期間に入らないうちに発表したい。

座長としては、できれば 1 週間以内を目途に考えている。
 - ・ 3 つの大きな論点、当委員会の今後の具体的な調査、基本的スタンス、ワーキンググループの活動など、全体を通して当委員会が何をしようとしているかを過不足なく分かるようなものにしたい。
- 5,000 万件、1,430 万件がどういった意味を持っているかについては？
 - 国民の方の立場からから見て、自分がどこに入るのか分かりやすいよう、もっと図示できないか検討中。
- 中間発表までの間にもう一度、公式な委員会を開くのか？
 - 発表までの間、持ち回りになるか、公式に開催するか、現時点でははっきりしていない。

(文責 事務局)